

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1143
施設名	タムスわんぱく保育園船堀
施設所在地	江戸川区船堀5-11-15
法人名	社会福祉法人春和会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語

<テーマの設定理由>

英語遊びを行っている中で、「先生（ネイティブ講師）とお友だちになりたい」という子どもたちからの発信があり、話したい気持ちを大切に、興味のある英語をさらに探求していけるようテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

年19回 ネイティブ講師による英会話（5月～2月）
6月～2月：日常生活の中で英語表現する活動
10月～2月：英語を使って自分から話しかける活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
イラストや写真で掲示を作成し、イメージと英語を繋げられるようにする。
電子黒板を設置し、知りたい言葉を調べられるようにする。
英語での音楽活動や、ローマ字での表記をする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・保育者も一緒に子どもたちと同じ活動を行う。
- ・天気や曜日、挨拶など生活で使いやすい英語での表現の場を取り入れる。
- ・子どもたちのなじみの深い、色・動物・乗り物等の英語を調べらるようにする。
- ・歌・ダンス・絵本等で、日本語以外の言葉に触れる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・ネイティブ講師との英語活動の中で、英語で表現することに慣れ、毎朝子どもたちから天気を英語で言うようになり、曜日や月、季節などに対して「英語ではなんて言うの？」と興味湧いてきていた。

・日々の保育者との関りの中で英語でクイズを取り入れることで、「講師と仲良くなりたい」「英語で会話したい」と子どもたちからの発信があった。クラスで出身地や好きな食べ物等、質問を考え、どうやって英語言うのかを電子黒板で調べ、直接聞く時間を取った。自分たちで考えた質問や、英語での表現が講師に伝わると自信が付いた表情になり、もっと調べたいという意欲に繋がっていた。また、質問の答えから図鑑や地図を用いて国名や場所を調べたり、講師への質問したいことが増えたり興味が英語にとどまらず、世界へと向いて行った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

英語講師と仲良くなりたいたいという気持ちから、英語を教えてもらうだけの活動ではなくなり探求する姿に変化が見られた。自分たちで知りたいことを英語ではどのように表現するのかすぐに調べられる環境（電子黒板）があったことによって、次々に質問が出てくる姿があった。また、英語でのやりとりを通して、世界にも目が向き他の国の人々や料理、場所への興味に繋がったと感じている。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1143
施設名	タムスわんぱく保育園船堀
施設所在地	江戸川区船堀5-11-15
法人名	社会福祉法人春和会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

音楽講師のもと音楽に触れ表現する中で「音」を楽しみ、音階に合わせて体を動かすことを喜んでいる。様々な楽器に触れて音色の違いを楽しんだり、音から動物や物への想像を広げたりすることで興味関心を深める。また自然物を使用したり、散歩先でも様々な音を感じさらに表現力が豊かになるようテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

・月に一回音楽講師によるリトミック・表現活動（通年）

9月～3月：様々な楽器を取り入れた活動

10月～12月：自然物を取り入れた音探し

12月～3月：廃材や自然物で作った楽器遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・音（ピアノの音色）から動物を連想して表現出来るよう広いホールを使用した。

・園にある楽器のほかに、音が鳴る物（自然物）を意図的に保育環境で設定した。

・叩くと音が鳴る楽器（木琴、ウッドブロック、ドレミパイプ等）を購入し、子どもたちが音に触れる機会を増やした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・「どんな音がするのかな？」という探求心を育むために、木琴、ハンドベル、ウッドブロック、ドレミパイプなど叩いてすぐに音が出る楽器や、ペットボトル、ラップの芯、どんぐりなど廃材や自然物を保育室のコーナーに設置し、子どもが自由に手に取って音を鳴らし音の違いに興味を持つ。

・「どんな動物さんみたい？」という表現力をさらに広げるため、子どもが音を鳴らしたときに言葉かけをし、子どもの気付きを拾い、動物や物の表現を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

触れたことがある楽器は「音楽に合わせて鳴らしたい。」と言う子が多かったが、ドレミパイプ、木琴などは恐る恐る手を伸ばし鳴らす様子が見られ、音色が分かると何度も音を鳴らしている。保育者がどんな動物さんみたい？と聞くと音の高低によって「ゾウ」「リス」等の声上がり、自然とその動物のような表現をしたり、鳴き声を真似する姿があった。

自然物、廃材を使った活動では、ペットボトルに入れるどんぐりの量によって音や音の大きさに違いがあることに気付く姿があった。夢中になってたくさん入れていた子は、どんぐりがぎゅうぎゅうになり音がならないことに驚いていたが、「量を減らすと鳴るよ」と友だちの言葉から減らす姿があった。

幼児クラスは様々な楽器に触れたことで、「こんな楽器を作りたい！」とイメージを持ってギター、マラカス、太鼓などを作っていた。音がイメージしたものと違ったり、うまくならないと「どうしたらいいのかな？」と保育者に聞き、自分のイメージする音を探しながら作成していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽器遊びや音を鳴らす経験をしながら、発見した音を子どもならではの表現で言葉や動きをし、表現力が広がった姿が見られた。ピアノの音色だけでなく、様々な楽器に触れていく中で、生活の中の音や高低音、音量にも違いがあることに気付いていた。そのような気付きから、自然物や廃材での楽器作りにも夢中になったと感じている。作って満足するだけでなく、音のイメージを持って製作したり、作成した楽器を保護者に披露したいと子どもから発信したりと、意欲や探求心をもって取り組む姿に変化を感じることができた。